



「清流の国ぎふ」文化祭2024

# 「匠の国ぎふ」の技を支える道具展

展示リスト

第39回国民文化祭 第24回全国障害者芸術・文化祭

## 「清流の国ぎふ」文化祭2024

ともに・つなぐ・みらいへ ～清流文化の創造～

2024年10月14日(月・祝)～11月24日(日)







岐阜県の良質な木材、豊富な水は、飛騨の木工、  
美濃和紙、関の刃物、東濃の陶磁器などの  
匠の技を生み出し、今日まで受け継がれています。  
しかし、県がこれまでに行った調査では、  
文化財の保存修理や伝統工芸品の制作などに必要な  
道具を作る職人が全国で急減し、伝統文化の継承には、  
「道具」の保存伝承も重要であることが分かりました。  
本道具展が、県内地場産業の魅力を再発見するとともに、  
道具の重要性を考える機会となりましたら幸いです。

◆日時 **10月14日(月・祝) - 11月24日(日)**  
2024年 10:00~18:00  
◆場所 **飛騨・世界生活文化センター 1F 企画展示室3**  
(岐阜県高山市千鳥町900-1)  
休館日 毎週火曜日  
**入場無料**

主催：岐阜県  
共催：飛騨・世界生活文化センター 指定管理者 飛騨コンソーシアム

※本書に掲載されている道具・原材料は、各分野で使用される主なものです。

|           |    |
|-----------|----|
| ● 林業      | 01 |
| ● 伝統建築    | 02 |
| ● 祭屋台     | 03 |
| ● 一位一刀彫   | 04 |
| ● 飛騨春慶    | 05 |
| ● 刃物      | 06 |
| ● 和紙      | 07 |
| ● 岐阜和傘    | 08 |
| ● 岐阜提灯    | 09 |
| ● 陶磁器     | 10 |
| ● 輪島塗     | 11 |
| ● 世界の大工道具 | 12 |

# 林業

岐阜県の面積は108万2千ヘクタールで、全国7位と広い県土を持つ県です。北部の飛騨地域には、奥穂高岳、槍ヶ岳、御嶽山、乗鞍岳や白山など3千メートル級の山々がそびえ、南部の美濃地域は濃尾平野が広がり、木曽川、長良川、揖斐川の水が三川に囲まれた海抜ゼロメートルの水郷地帯まで及んでおり、「飛山濃水」の地と呼ばれています。県土の8割は豊かな森林が占めており、森林率は全国2位です。その豊かな森林は代々の県民によって守り受け継がれています。



## 1 式年遷宮 斧

第62回式年遷宮の斧入式(平成9年)等で実際に使用された斧。

## 4 大鋸(オガ)

丸太を縦挽き(木の繊維方向に挽くこと)し、板状にするための道具。1人挽きの「前挽大鋸」は、日本独特の鋸。

## 7 鉋(マサカリ)

丸太の側面をはつり(削り落す)、角材に仕上げる道具。

## 10 鳶(トビ)

鳥のトビのクチバシ形の尖った刃先を丸太に刺して、持ち上げたり転がしたりする道具。

## 11 鎌(カマ)

山林の枝打ちや下刈りに用いる道具。

## 12 カナヤ

木の切れ込みにハンマーで叩いて打ち込み、木を割るための道具。

## 13 カスガイ

丸太に打ち込み、木と木をつないで固定する金具。

## 2 式年遷宮 切株

式年遷宮の御用材伐採で用いられる「三ツ緒伐り」の技法で伐採された切株。

## 5 ガンド(横挽鋸)

丸太を木目に直行して切る場合に使用する鋸。

## 8 鉋(ナタ)

まき割りや樹木の枝下ろしなどに用いる道具。

## 3 斧(オノ・ヨキ)

原木の伐採や丸太を打ち割る道具。伐採用の切斧は刃が薄く木に食い込みやすい形をしています。

## 6 窓鋸(マドノコ)

切った溝のおがくずを窓の部分に引き込んでほき出すようになっている鋸。

## 9 手鋸(テノコ)

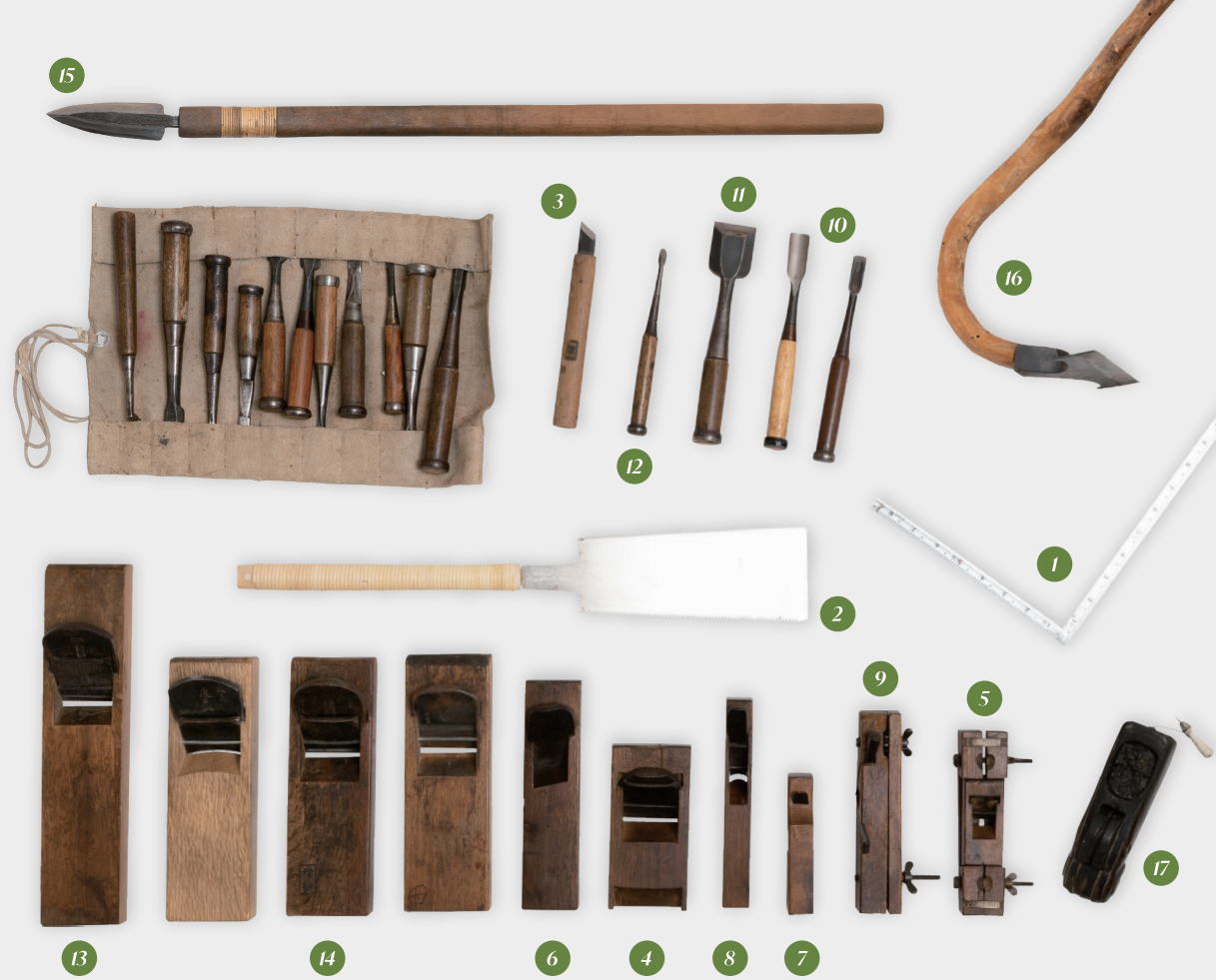
立木の伐採、枝打ちなど、細い木材を切るための鋸。





# 伝統建築

岐阜県の飛騨地方では、奈良時代に木工技術者を都に送ることで税に充てる全国唯一の「飛騨工（ひだのたくみ）制度」がありました。飛騨の豊かな自然に育まれた「木を生かす」技術や感性と、実直な気質を持った職人は「飛騨の匠」と称えられ、今もなお様々な場所で飛騨の匠の心と技に触れることができます。



## 1 指金

L字型の定規で、木材などの長さを測ったり、線を書いたり、直角を確かめるための道具。

## 5 面取鉋

角材や板材に様々な面を取る（作る）ために使用する鉋。多様な面に応じて鉋の種類も多くあります。

## 9 目違ひ鉋

溝鉋の一種で、野引刃代わりの脇針を取り付けた鉋。蟻決（しゃくり）鉋とも言います。

## 13 長台鉋

板材を平らに削るための鉋。台の長さが40cm前後の鉋をこう呼びます。

## 17 墨壺

木材などの表面に墨で直線を引くための道具。

## 19 万力

大割した樽材を木の繊維に沿って小割に剥ぐ（へぐ）ための道具。※剥ぐ（へぐ）とは、薄く割ること。

## 21 側鉋

万力や鎌で剥（へ）いだ樽板の表面を整えたり、木端面を削って幅を揃えたりする道具。

## 2 鋸

木を切断する道具。木の繊維方向に挽く「縦挽き」と、繊維の方向と直角に挽く「横挽き」があります。

## 6 際鉋

台の下端の一方の角まで刃先が出るように仕込み、入隅（いりずみ）壁と壁が出会うへこんでいる角の際を削るための鉋。

## 10 丸鑿

丸い部分の加工や穴掘りに使用する、刃の丸い鑿。

## 14 平鉋

板や角材などの表面を平滑に削るための鉋。

## 18 大割鉋

玉切りした原木を放射線状（ミカン割）や大割するための道具。木槌で叩いて使います。

## 20 鎌

樽材を木の繊維沿って小割に剥ぐための道具。両刃のため薄く剥ぐのに適しています。

## 22 銑（せん）

樽板の厚みや軒付板を整える際に使う道具。

## 3 小刀

先端が斜めの刃となっている、主として物を削るための道具。

## 7 内丸鉋

台の下端が内側に湾曲し、凸型の曲面を削るのに使用する鉋。鉋の刃先も台と同様の円弧状になっています。

## 11 大入鑿

穴を掘ったり、削り取ったり、主に小細工仕事に使用する鑿。

## 15 槍鉋

柄に槍先のような刃を付けた道具で、手前に引いて木を削る。表面を平らにするだけでなく、木目にさざ波のような独特な模様をつけることもできます。



## 4 小鉋

板や角材などの表面を平滑に削るための平鉋のうち、刃幅が1寸8分（約5.5cm）以下で台も短いものです。

## 8 内丸作里鉋

凸型の曲面となっている溝を削る鉋。

## 12 壺鑿

刃先が円くなっている鑿。円い孔（あな）をあけるのに用います。

## 16 鉋

木材の表面をはつるための道具。



## 1 鉋

木材の表面を薄く削り取る道具。サイズや形の違うものなど多くの種類があります。

## 6 火箸

炭火や熱した金属などをつかむための道具。

## 2 鑿

木材に穴を開けたり溝を刻んだりする道具。サイズや刃の形状が違うなど多くの種類があります。

## 7 墨壺、墨指

木材などの表面に墨で直線を引くための道具。

## 3 彫刻刀

彫刻などの比較的微細な木材の切削に使われる刃物。

## 8 割り野引き

平らな木材の表面に、基準面から平行に線を引きするための道具。先端の野引刃が墨線より細い線を正確に引きます。

## 4 指金

L字型の定規で、木材などの長さを測ったり、線を書いたり、直角を確かめるための道具。

## 9 打ち抜き鑿

槌で叩いて、材料に穴をあけたり削ったりする道具。

## 5 鉋

木や金属などを削り寸法を整えたり、材料の形状の加工、角を落としたりする道具。

## 10 手槌

片手で用いる小さな槌。

# 祭屋台



飛騨高山祭の屋台は、卓越した技術力と長年受け継がれてきた伝統によって生み出されています。屋台は豪華な彫刻や漆塗り、金箔で飾られ、その美しさはまさに芸術品であり訪れる人々を魅了し続けています。これらの屋台の製作には、精密な木工技術や細やかな彫刻が求められ、これを可能にするのが代々伝わる匠の技であり、職人が使う伝統的な道具の数々です。



## 11 環珞部品

屋台に付随する飾り物である環珞（ようらく）の型紙。



## 12 反鉋

鉋台の下面が反っていて、凹んだ部分を削る際に使う道具。連続的に削りながら造形したり曲面を削り出したりします。



## 1 彫刻刀

彫刻などの比較的微細な木材の切削に使われる刃物。



一位一刀彫は、シンプルながら力強い美しさが魅力の木彫り工芸品です。希少な一位の木を素材に使い、その素材の特徴を活かしながら、様々な種類や形の鑿や彫刻刀で彫り上げます。職人たちが使用する鑿や彫刻刀は、手に馴染むよう丹念に手入れされ、磨き上げられています。これらの道具は、作品の完成度を左右する重要な役割を果たしています。

## 2 鑿

木材に穴を開けたり溝を刻んだりする道具。サイズや刃の形状が違うなど多くの種類があります。



# 飛騨春慶

飛騨春慶は、木の風合いを生かして仕上げられています。そのため時を経ることに木目がより浮き出して独自の味わいが楽しめます。ほかの漆器に比べると工程が少なく軽いので、より実用性が高いことも魅力です。飛騨春慶は、木地師と塗師が分業しそれぞれの熟練した職人技によって完成される伝統工芸品です。



## 1 鉢

板の表面を薄く削り取る道具。

## 3 漆かき

漆を採取するため漆の木の表面に傷をつけるための道具。

## 5 木べら

漆塗り(下塗り)や、余分な漆を取るための道具。作業用途に応じて、大きさを使い分けます。

## 2 挽物カンナ

ろくろで回転する木地に刃先をあてて、お椀などの円形の器を削る(挽く)ための道具。

## 4 漆壺

漆掻きのときに、漆を取り溜める筒状の壺。木の皮でできています。

## 6 刷毛

漆塗りの後半の工程(中塗り、上塗り)で漆を塗るための道具。





# 刃物

## 日本刀製作のための道具

関の刀鍛冶は、鎌倉末期から南北朝時代に始まりました。刀づくりに欠かせない松炭、水土に恵まれたことで多くの刀鍛冶が移り住み、最盛期には300人以上の刀匠を有する刀の産地（美濃伝）として栄えました。こうして生まれた技法とモノづくりの精神は、現在の関の刃物づくりに引き継がれ、包丁、カミソリ、ハサミ、台所・食卓用刃物など多量の製品を製造する「世界の三大刃物産地」の一つとなっています。



### 1 松炭

古来より、日本刀の鍛錬に使用される炭。



### 2 焼刃土

刃文(ほもん)を焼き入れる時に刀身に置く土で、粘土や炭、砥石の粉などを混ぜて作られます。



### 3 玉鋼

日本の古式製鉄法で作られる鋼の一種。日本刀の原料となります。



### 4 ヘシ

玉鋼を熱して叩いて平たくしたものの。



### 5 折り返し鍛錬

鋼を叩いて延ばした後、中心に切れ込みを入れて半分に折り返し、槌で叩く作業を繰り返す工程のこと。



### 6 研桶

研磨作業に必要な水を入れておく桶。下地研ぎの際に用います。



### 7 研ぎ棒(磨き棒)

刀を研磨するための棒状の道具。刀身に金属特有の鏡面の光沢を付けるための磨き棒を使用します。



### 8 金床(かなとこ)

熱した鋼を叩くために使われる鉄製の作業台。



### 9 手槌

鍛錬と素延べ、火造りなどの工程で用いられる片手で持てる槌。



### 10 火ばし

玉鋼や刀身を挟んで支えるための道具。



### 11 火かき棒

炭や灰を掻きだすときに使う道具。



### 12 てこ棒

炉で鋼を沸かし、金床の上で鍛錬したりする時に鋼を支える棒。材質は刀身と同じ「玉鋼」。



### 13 セン

刀身の表面をきれいに削って整えるための道具。本来は両側に木製の柄が付いている。



### 14 タガネ

ハンマーで叩いて、刀に刀工の名前などを彫るための道具。材質は鋼材。



### 15 ハンマー

タガネを叩く(打つ)ための道具。



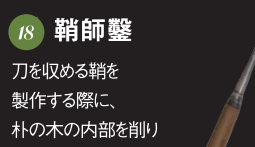
### 16 焼き入れ水槽(刀身用)

炉で熱した刀身を一気に急冷するために水を入れておく水槽。



### 17 小刀

鞘の製作において、鑿(のみ)の削り痕をならして仕上げる道具。



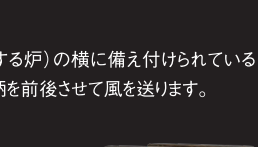
### 18 鞘師鑿

刀を収める鞘を製作する際に、朴の木の内側を削り刀身に沿って成形する道具。



### 19 轆

火床(ほど:鋼を熱する炉)の横に備え付けられている送風装置。手前の柄を前後させて風を送ります。



### 20 研ぎ台、踏まえ木

下地研ぎの際、砥石を乗せる台と、砥石の上に置いて、足で踏んで砥石を固定する木。



### 21 大槌

鍛錬と素延べなどの工程で用いられる大きい槌。



### 22 土置台、土練台

刀身に焼刃土を塗る際に使用する台と、焼刃土を練る際に使われる台。



### 23 砥石

刀の刃の部分を研磨するための道具。粗い目の砥石から細かい目の砥石に徐々に取り替へながら、手作業で行われます。下地研ぎと仕上げ研ぎの2種類の段階に分けられ、特に下地研ぎでは使われる砥石

# 和紙

美濃和紙の歴史は古く、奈良の正倉院には、現存する日本最古の紙として、大宝2年(702年)の美濃国の戸籍用紙が所蔵されています。美濃の豊かな自然、長良川、板取川の清流に生まれ、1,300年の伝統を今に受け継ぐ美濃和紙は、縦揺りに横揺りを加えた独特の技法により生み出され、柔らかみのある繊細な風合いをもちながら、強靱で耐久性があり、薄くムラがないことが魅力です。障子紙から日常品まで様々なものに用いられ、さらに世界各国で古文書や絵画など国宝級の文化財の修復に使用されています。



### 2 たね台、敷きづめ

漉き上げたばかりの紙(「たね」と言います)を載せていく板と、その板を乗せる台。

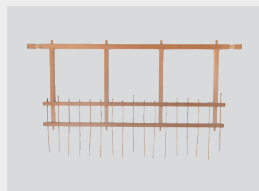


### 3 楮(大子那須楮)

和紙の原料。本美濃紙は茨城県大子町産の大子那須楮が使用されています。

### 4 木槌

ちり取りを終えた楮の皮を叩いて繊維をほぐすための道具。



### 5 馬鋏

漉き舟に入っている和紙の原料繊維をかき混ぜるための道具。櫛状になった部分で繊維をほぐすように攪拌(かくはん)します。



### 6 桁

和紙を漉くときに簀をはさむ木枠。上に設置されている竹竿と紐でつなぐことにより、竹のしなりを利用して桁内の原料の重さを軽減することができます。



### 7 簀

原料の入った水の中から和紙にするための原料をすくうもので、繊細な竹ひごを編んですだれ状にした道具。本美濃紙と手すき和紙とは、竹ひごの編み方が異なります。



### 8 刷毛(ヨコ刷毛・鉋刷毛)

漉いて圧搾した湿紙を干し板に貼りつけて乾燥させる時に使う道具。ヨコ刷毛は美濃の特徴です。



### 9 刷毛(タテ刷毛・T字型)

漉いて圧搾した湿紙を干し板に貼りつけて乾燥させる時に使う道具。



### 10 竿(竹竿)、紐

紙を漉くための簀を吊るすための紐と竹の竿。



### 11 干し板

漉いて圧搾した湿紙を天日で乾燥させるために貼り付ける枋材の板。



### 1 漉き舟

和紙を漉くための原料繊維と水を入れる水槽。



# 岐阜提灯



岐阜提灯は、岐阜県岐阜市などで作られている提灯です。江戸時代以来の歴史を持ち、平成7年（1995年）4月に国の伝統的工芸品に指定されました。その特色は、細いヒゴを巻き、薄い和紙を張って秋の七草・花鳥・風景模様などの絵を描いたもので、「御所提灯」と呼ばれる、上から吊り下げる卵形の物が代表的です。その他にも、三本の脚が付いた据え置き型の「大内行灯」や「変形提灯」などが生産され、日本有数の産地を誇っています。



## 1 張り台

ヒゴを巻いた型を和紙を張るために設置する道具。

## 2 巻き台・巻き見本

提灯のヒゴを巻くために型を組み立てて設置するための道具。



## 3 あかり3Aをつくる材料と道具

イサムノグチ（あかり）の製作道具。



## 3 張型

提灯の形をつくるための型。

## 4 ノリバケ、ノリイタ、ノリザラ

らせん状に巻いたヒゴに紙を貼る（糊付けする）ために使う道具。

## 5 ナゼバケ

和紙が竹ヒゴになじむようにする際に使用する道具。

## 7 摺込み用具（ボタンバケ）

提灯に貼る紙に色を入れるための道具。

## 8 摺込み用具（型紙）

摺り込みを行うための型紙。伊勢型紙に図を貼って着色部分を彫ったもの。

## 9 ツケサシ

摺込に使用する顔料を小皿に少量ずつ移すための道具。

## 10 カギバリ

糸をヒゴに巻きながらかける際に使用する道具。

## 11 ヘラ

紙を貼った提灯のヒゴとヒゴの間に折り目をつけるための道具。

## 12 カミソリ

紙を貼り付けた後、余分な紙を切るための道具。



## 1 ヒラガタ

傘に貼る傘紙を裁断するための型。

## 2 カナヘラ

傘骨に紙を張る際に、紙と骨が密着するようにする道具。

## 3 カナオサエヘラ

傘骨に紙を張る際に、紙と骨が密着するようにする道具。

## 4 マタヘラ

和紙を張った後、紙にたたむ際の折り目をつけるために使用する道具。

## 5 タタキボセ

軒部分を叩きながら細身にしていくために使用する道具。

## 6 シアゲヘラ

折りたたんだ傘を擦って、紙と骨がなじむようにする道具。

## 7 スゴキベラ

湾曲部を閉じた傘の側面にあてて、表面を滑らかに整えるための道具。

## 8 カミソリ

張りの際、余分な紙を切るための道具。

## 9 エゴノキ

和傘の開閉に必要な部品の材料。

## 10 ロクロ（番傘用）上、下

和傘の開閉に必要な部品。これを作っているのは全国で1軒（岐阜町）のみです。

## 11 繰り込み後の傘

柄に頭轆轤（ろくろ）を付けた状態のもの。

## 12 糸

傘の柄に取り付けたロクロと傘骨（親骨）を一本ずつ繋ぐための糸。

## 13 締め輪

畳んだ状態の傘をより細く見えるように仕上げるための道具。

## 14 竹切りノコ

傘骨の材料である竹を所定の長さに切りそろえる際に使う道具。

## 15 小刀

竹の節や小割にした骨の傘を削る際に使用する道具。



## 18 ノリバケ、ノリイタ、ノリザラ

傘張りの際に、糊付けするために使う道具。

## 16 竹ひご見本（蛇の目傘用小骨）

傘1本分の竹ひごを並べてワイヤーを通したものの製作見本。

## 17 小骨突割器

小骨（親骨の中程に繋ぐ支えの短い骨）を親骨に繋ぐため、先端を二つ割りにする道具。

## 19 傘張り台

傘紙を張る際に使用する台。



岐阜和傘の始まりは、寛永16年（1639）松平（戸田）光重が明石藩から加納（現在の岐阜市南部）藩への移封の際に、傘職人を連れてきたことだといわれています。その後、下級武士の生計を助けるために和傘づくりが奨励されたこと、岐阜市を流れる長良川流域に和紙や竹などの良質な材料が豊富だったことから地場産業として発展し、最盛期の昭和20年代中頃には、年産1千万本を超える和傘が作られました。洋傘の普及に伴って生産は減少しましたが、生産技術は受け継がれ、現在でも岐阜市は和傘生産の国内シェア約6割を占める日本最大の産地となっています。





# 陶磁器

美濃焼は、東濃地域の主に多治見市、土岐市、瑞浪市、可児市で生産されてきたやきものの総称に恵まれ、陶磁器の和・洋飲食器の生産額は、現在、国内シェアの50%以上を占めています。時代を経るごとに新しい技術を築き、美術的価値の高い陶芸品から日常で使う家庭用の食器まで、様々な形、色彩の焼物を誕生させてきました。この多種多様さが美濃焼の特徴です。



1 砧  
陶土を叩いて細かく砕くための道具。



2 転写紙  
焼成済みの陶磁器に絵やデザインを転写するための紙。



3 小刀  
ヘラを削るための道具。



4 ヘラ  
作品を整形するための道具。



5 削り道具  
作品の曲面や平面を削る道具。



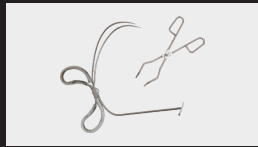
6 ロクロボセ  
ロクロを回すための棒。



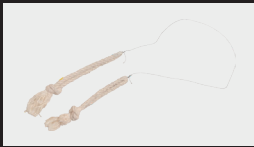
7 ひっかき棒(鉄製)  
焼成中の作品の位置や向きを変えるために使う道具。



8 筆(稲の穂)  
稲の穂を利用した筆で、作品に模様を入れる際に使用する道具。



9 釉掛けハサミ  
素焼の作品をはさんで、釉薬の中に沈めるための道具。



10 しっぴき  
ロクロの上の粘土から作品を切り離す道具。



11 筆  
作品に絵を付けたり、文字を描いたりするための道具。



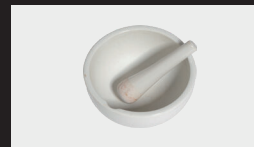
12 つく  
作品を焼成する際に、棚板を支えるための道具。



13 スプレーガン  
釉薬を吹き付けるための道具。



14 ひしゃく  
釉薬を作品にかける際に使用する道具。



15 乳棒、乳鉢  
釉薬や絵の具を擦り合わせたり、混ぜたりする際に使用する道具。



16 石膏型(排泥鑄込み)  
陶磁器の原料を流し込み、花瓶や徳利など袋状の製品を作るための道具。



17 石膏型(圧力鑄込み)  
陶磁器の原料を圧力を掛けて流し込み、成型するための道具。



18 釉甕  
釉薬を入れておく容器。釉薬を作品にかける際に使用します。



19 志野筆立て  
筆立て。



20 モロ板  
作品を乗せる際に使う板。



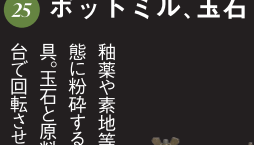
21 寒風呂  
炭火で湯を沸かし冷えた手を温める道具。粘土に水分を与える役割もあります。



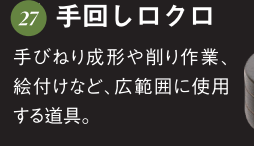
22 ツク(窯道具)  
作品を焼成する際に、棚板を支えるための道具。



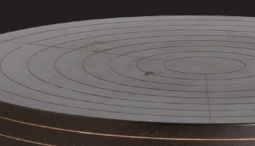
23 棚板(窯道具)  
焼成の際、窯内で作品をのせる板。



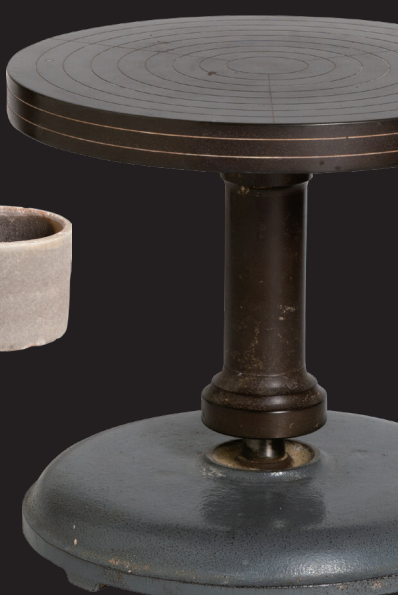
25 ポットミル、玉石  
釉薬や素地等の原料を細かい状態に粉砕するために使用する道具。玉石と原料を入れて、ミル架台で回転させ粉砕します。



27 手回しロクロ  
手びねり成形や削り作業、絵付けなど、広範囲に使用する道具。



26 匣鉢(さや)  
作品を焼成する際に灰が掛からないためや、積み上げて効率よく陶器を焼くために、作品を入れる容器。切れ込みは、直火による焼成となるための工夫。



24 桶(瀬戸黒引き出し用)  
瀬戸黒制作工程で、窯から引き出した茶碗を急冷して漆黒に呈色させる際に使用する道具。



1 鉋(曲物木地)  
丸盆やおひつなどの側面の曲物用の板の表面を薄く削り取る道具。

2 罫引  
平らな木材の表面に線を描いたり、薄板を割り挽く道具。

3 豆鉋(朴木地)  
曲面の多い複雑な形状の木地を削るための小さい鉋。

4 カンナ(椀木地)  
椀木地を挽くための道具。

5 外鉋  
表面のホコリやゴミを削り落とし、木地の表面を平らに整える道具。

6 塗師小刀  
主にヘラを削るための刃物。

7 篋(へら)  
漆(下地)を塗るための道具。

8 篋の材料  
篋の材料であるアテ材(能登ヒバ)。これを柁割して篋を作ります。

9 檜皮篋(ひがわべら)  
檜、アテの樹皮で造った篋で、丈夫に仕上げたい部分(椀等の上縁)に生漆を塗る道具。

10 刷毛  
漆を塗るための道具。塗る場所や漆の粘りで数種類を使い分けます。

11 フシ上げ棒  
竹又は羽根軸で作られている先端の尖った細い棒で、上塗作業中についたホコリを取り除く道具。

12 曲木地  
薄く加工した、アテ、ヒバ、ヒキなどの柁目板(まきめいた:木目が縦に通った材料)。円形または楕円形に曲げ、丸盆や弁当箱などを作ります。

13 コクソ粉  
ケヤキ粉のことで、生漆を混ぜて、欠けを埋める刻苧(こくそ)漆を作ります。

14 惣身粉  
コクソ粉を煎った木粉。

15 輪島地の粉  
輪島の市内でのみ採掘される珪藻土を焼いて粉砕したもので、工程により異なる大きさの粒子を使用します。

16 駿河炭(研ぎ炭)  
中塗、上塗を研ぐための研ぎ炭。

17 蒔絵道具  
漆で絵柄を描いた漆器の表面に金・銀の金属粉や色粉を蒔きつけて付着させる、蒔絵の技法で用いる道具。

18 沈金道具  
漆器の表面に絵柄を彫り、その溝に塗った漆の上に金箔や金銀粉等を埋めて(沈めて)、模様を描き出す沈金の技法で用いる道具。

輪島塗の特徴は、輪島特産の「地の粉(珪藻土の一種)」を漆に混ぜて繰り返し塗る本堅地(ほんかたじ)技法や、木地のいたみやすい上縁に生漆を塗る「地縁引き(ちぶちびき)」などの丁寧な手作業から生まれる堅牢さにあります。使い込むごとに美しさを増す輪島塗は、用と美を兼ね備えた漆器です。

# 輪島塗

19 渡し馬  
新吉野紙で漆を紋じり漉すための道具。





# 中国



中国の鋸と鉋は、基本的に「押して使う」方式です。鋸は枠に刃を組み合わせた枠鋸、鉋には力を効率的に加えられる取手が付いており、いずれも硬い木材を加工する際に安定した操作が可能です。鉋の刃の仕込み角度は一般的な日本の鉋より急勾配で、取手を手でしっかり握って力を込めて押すことで、硬い木の表面を削りやすいように設計されています。

## 1 直角定規

長さを測ったり、直角を測ったり、点検などの作業に使う道具。

## 5 丸鑿

円溝の強い曲線や深い器彫りなどに使う道具。

## 9 長台鉋

板材を平らに削るための鉋。台の長さが40cm前後の鉋をこう呼びます。

## 2 墨壺

木材などの表面に墨で直線を描くための道具。

## 6 叩鑿

玄能や鎚を使ってホゾ穴を掘ったり、脇を削り取ったりするときに用いる道具。

## 10 決り鉋

鴨居・敷居など、幅のある長い溝の底を削る時に用いる鉋。

## 3 枠鋸

枠のついた鋸で、押し使いで木材を切断する道具。

## 7 平鉋

木材の表面を薄く削り取る道具。中国の鉋は押し使いで用いるため、ハンドルが付いています。

## 11 舞錐

ひもで錐を回転させて穴を開ける道具。

## 4 弓鋸

弓形の竹の柄に取付けた、細かい曲線を挽くための糸鋸。

## 8 小穴突

細い溝を削るのに使用する鉋。定規で溝の位置が変えられるようになっています。

## 12 小斧

枝を切る、または材料をはつる時に使う道具。

世界の大工道具は、国や地域ごとに異なる特徴があり、それぞれの自然環境や歴史、文化、そして建築様式に深く結びついています。日本は軟らかくまっすぐな針葉樹に恵まれたため、鉋と鋸を「引いて使う」方式で木材を複雑かつ精密に仕上げる技が発達しました。一方、世界のほとんどの地域では硬く曲がりのある樹種を多用するため、鉋と鋸は「押して使う」方式が一般的です。

# 世界の 大工道具

# ヨーロッパ



ヨーロッパでは古くから斧と鋸が発達し、大工用の鉋は荒削り用が主です。建築に用いる木材が硬く割れやすいため、木の継ぎ方が日本に比べて複雑ではなく、表面も荒い仕上げが好まれるのです。鋸は枠鋸の形式、鉋には利き手で握りこむ突起があり、どちらも中国と同様に「押して使う」方式です。海外の鉋には金属製のボディを持つものもあります。



## 13 水平器

部材の表面や組み立てた状態が水平であるかどうかを調べるために使う道具。

## 18 小穴突

細い溝を削るのに使用する鉋。定規で溝の位置が変えられるようになっています。

## 14 スコヤ

直角を調べるために使う道具。

## 19 相決り鉋

鴨居・敷居など、幅のある長い溝の底を削る時に用いる鉋。

## 15 枠鋸

枠のついた鋸。押し使いで木材を切断します。

## 20 ボールト錐

木材に丸い穴を開けるための錐。ボルトを通す大きな穴をあける時に使用します。

## 16 叩鑿

建築部材のほぞ穴などを加工するのに用いる道具。

## 21 木槌

鉋刃の台からの出し入れや鉋刃の微調整に使用する道具。

## 17 平鉋

板や角材などの表面を平滑に削るための鉋。

## 22 はつり斧

材料を荒くはつるのに使う道具。